

	広島大学 学際分野
学部等の教育研究 組織の名称	総合科学部（第1年次：130名） 総合科学研究科（M：60名、D：20名） 国際協力研究科（M：71名、D：36名）
沿 革	昭和24（1949）年 広島大学設置 昭和49（1974）年 総合科学部設置 平成6（1994）年 国際協力研究科設置 平成18（2006）年 総合科学研究科設置
設置目的等	<p>昭和49（1974）年に、総合的な研究領域の開拓と創造、及び一般教育と専門教育との一体化を図り、多様化した現代社会に適応する人材を育成することを目的として、総合科学部が設置された。</p> <p>平成6（1994）年に、開発途上国が抱える様々な問題に対して、環境・教育・平和をキーワードとした学際的な研究アプローチによって、創造的・協同的に取り組むことができるグローバルリーダーを育成することを目的として、国際協力研究科が設置された。</p> <p>平成18（2006）年に、総合科学部を基礎として、総合的知見と思考力の滋養に努めるとともに、21世紀の人類社会が直面する複合的課題に取り組むことを目的として、総合科学研究科を設置した。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>【総論】</p> <p>広島大学における学際分野においては、真理の探究を図るとともに、我が国における平和教育や国際協力分野の普遍的役割及び社会の課題解決の役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。</p> <p>引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。</p> <p>【教育】</p> <p>(学部)</p> <p>○ 文理複数の学問分野にまたがる学際的領域の教育研究を通じて、専門性と学際性を兼ね備えた総合的知見と思考力を育成し、柔軟に発想し多角的に物事を捉える能力を身に付け、広く社会で活躍できる人材を養成する。</p> <p>○ このため、人間・自然・社会の3つの探求領域を統合した学際的教育</p>

プログラムを実施するとともに、科学リテラシーの理解を深める授業科目の提供や異分野教員による複数指導体制に取り組んでいる。

- 今後、学士課程教育のグローバル化を推進するとともに卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課程を編成し、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等を整備する。また、これらの取組の実施だけではなく、可視化した資質や能力に応じた取組の成果や効果等を適切に把握していくことにより、学士課程教育の質的転換に取り組む。

(大学院)

- 文理融合の学際分野では、個々の研究の深い専門性に加え、ジェネラリストとして文理の枠にとらわれることなく、人間・環境・文明に関わる分野における複合的な諸課題を分析・解決する能力を兼ね備えた高度専門職業人・研究者を養成する。
国際協力分野では、環境、平和、教育をキーワードとして途上国が抱える諸課題に対して、複眼的・国際的視野で課題を発見・分析・解決できる能力、英語により交渉等を行うコミュニケーション能力を有する高度専門職業人・研究者を養成する。
- このため、文理融合の学際分野では、研究領域を超えた研究指導やグループ討論型授業に取り組んでいる。
国際協力分野では、国際機関と連携した英語による教育プログラムや海外インターンシップを推進している。
- これらの取組を通じて、例えば、国際協力分野では、途上国からの留学生を受け入れ、現地開発を担う人材を養成し、これまでに 200 名を超える途上国の発展を支える研究者や政府職員を輩出している。
- 今後、社会人、留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、コースワークの充実や国内外での長期インターンシップの実施など、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。

【研究】

- 文理融合の学際分野の研究実績をいかし、平和科学研究プロジェクトなどの学際的・総合的な学問研究プロジェクトに取り組んでいる。
国際協力分野では、フィールド研究の実績をいかし、環境経済学などの基礎研究とともに、国際協力分野の学際研究（国際環境協力、国際平和協力、国際教育協力）に取り組んでいる。
- これらの取組を通じて、文理融合の学際分野では、「かわいい」と感じることが作業能率の向上につながることの科学的解明など注目度の高い成果につながっている。また、国際協力分野では、国際協力研究拠点を形成し、ネパールやフィリピンでの平和構築研究やザンビアへの理数科

教員派遣による貢献等につながっている。

- 今後、クォーター制導入によるサバティカル制度の実質化を図り、学際的・総合的な研究を組織的に推進するとともに、我が国の社会の課題解決・文化の発展に貢献することを目指す。また、海外大学や国際機関との連携を強化し、国際共同研究や調査等を推進することにより、当該分野の研究成果を国際的に広く発信する。

【その他】

- 国際協力分野では、国際協力機構（JICA）等からの要請を受け、途上国の抱える環境・教育の諸課題に対応したプロジェクト研究や研修コースを実施するなど、国際貢献活動に取り組む。
- 全学的な機能強化を図る観点から、18歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学部・大学院の教育課程及び組織の在り方、規模等の見直しに取り組む。また、国際協力分野の大学院の定員未充足の改善のため、魅力あるカリキュラムの再構築、定員規模の見直し等に取り組む。